

平成30年度まちかどミーティング意見概要

※意見については省略しているものもあります。

【西脇地区】平成30年7月13日開催

1 第2次総合計画について

質疑なし

2 新庁舎・市民交流施設の整備について

質疑なし

3 市政全般に関する意見交換

○ 北本町にある「寿市場」について、かつては多くの商店で賑わっていたが、昭和50年頃から現在まで寂れた状態が続いている。所有者が不明な建物も多く、衛生上、防犯上、安全・安心の観点で心配している。所有者の中には、市に寄付したいとの思いを持っている方もいると聞いている。難しい課題であることは重々承知しているが、市の空き家対策として、検討していただけないか。

⇒ 空き家は、本来所有者が管理すべきものと考えています。ただ、「寿市場」に関しては、長屋の建物であることから、通常の一軒家に比べると管理が難しいことも十分に理解しています。この問題に関しては、今後、空き家対策協議会で検討する予定です。

○ 「寿市場」では、多くの人が住んでいた当時でも放火があったので、2軒ほどしか人が住んでいない今はさらに危ない。長屋なので空き家対策特別措置法での取り壊しも難しいのではないかと。また、登記情報だけでは所有者を把握するのは困難であり、行政の支援というよりは、行政のリードが必要だと考える。

○ 「認定こども園への移行」について、先日ある保護者から、「こども園ではあまり園庭で遊ばせてくれない。子どもにYouTubeを見せたりしている。こども園に移行してから、保育、教育の質が落ちたように感じる。」との話を聞いた。市長はどうお考えか。

「南北道路」について、アンケートでは約80%が同意しているにも関わらず一向に話しが進んでいない。市は、町の声上げがないと進まないと言うが、まずはリードする者が必要であり、それは市がおこなうべきだと考えるが市長はどうお考えか。

⇒ 「認定こども園への移行」では、市内8こども園がそれぞれの特性を生かした保育を実施されています。保護者が8園から自由に選べる制度をとっており、保育の競争をしてもらっています。また、教育の部分については、しばぎくら幼稚園の教諭が市内8こども園を巡回指導し、同じレベル

の教育を保障できるよう取り組んでいます。また、共通のカリキュラムを作成したり、定期的な研修を実施したりするなど、より質の高い教育の提供を目指しています。

⇒ 「南北道路」に関しては、行政が地域のまちづくりを主導する時代ではないと考えています。市民の方が思いを共有し、目的を達成するために一致団結していかないと事業が進みにくいと考えています。日野地区を例に挙げると、JR跡地の道路化が進んだのも、市民自らが動き、署名を集め、県へ要望した結果です。もちろん、南北道路の拡幅は必要だと考えていますが、市民の皆さんで運動を見える化し、県へもアピールしていただきたいと思います。

○ 先般の西日本豪雨の際には、平成16年の台風被害を教訓に、町内でも連携を図り対応した。民生委員を中心に、町内の要支援者を避難所へ誘導するなどの共助も行ったが、そもそも避難所へは橋を渡らなければならず、過去のトラウマもありかなりのストレスだった。不安な住民のために公民館の解放も行ったが、堤防が決壊した場合には一番危険な場所に立地している。避難所について、川西にも設定することを検討いただけないか。

また、河川監視カメラシステムが災害中に一切アクセスできなかった。市でカメラを設置し、アクセス集中時にもアクセス可能にできるようなシステムを構築するなど対応を検討していただきたい。

⇒ 「避難所について」 避難所の設定は、市の施設を対象にしており、新たに設定するのは難しいです。今回のように、過去の経験を教訓に皆さんが助け合い行動されたことは大切なことであり感謝しています。

⇒ 「監視カメラシステムについて」 西脇工業へ4年前に開発を依頼しており、つい先日そのプロトタイプができたとの連絡がありました。ただ、アクセス集中への対応は難しいものがあるので、制限をかけるなどの策を講じ実用化に向け調整していただきたいと考えています。

○ 会議の在り方や行政の対応について、会議で意見を述べても結局は何も変わらなかったり、行政からの返答がなかったりと対応を不満に思うことがある。また、様々な会議に出席させてもらうが、意見を述べても「ここで議論すべきものではないので、他で述べてほしい」と言われることもあった。一方で、あて職で嫌々来られている方も多く、無駄だと思う会議が多いように感じる。もっと市民が様々な場面で意見を述べることができる仕組みを構築していただきたい。

⇒ 行政が開催する会議について、課題があることは理解しています。すぐに改善できることはありませんが、きちんと受け止めていきたいと思えます。

1 第2次総合計画について

質疑なし

2 新庁舎・市民交流施設の整備について

- 新しい庁舎敷地内の駐車スペースは 350台と説明があったが、現在の市職員の駐車台数は何台なのか。
 - ⇒ 職員の駐車台数は約 300台分必要と考えています。この施設で必要な台数は、イベントを考慮すると合計 720台必要と計画しています。敷地内には 350台分を計画し、残りを周辺で確保するように考えています。
- その費用はどこから出る予定なのか。朝の10時の時点でどれだけのスペースが残っているのか。敷地内に 350台分を計画するのであれば、市職員の駐車のあり方を十分に検討していただきたいと思っている。
 - ⇒ 敷地内に職員の駐車台数 300台を設けた場合、50台しか残らず、それでは日常的に足りていないという認識は持っています。350台を来庁者用に開放し、市の職員の駐車場を敷地外で確保することとした場合、用地を買う、借りるなど様々な方法があると考えており、現在検討中です。
- 織物産業が衰退し、所得がどんどん下がっている。きつい言い方にはなるが、職員 300人の方にどれだけの交通費が支給されているか知らないが、例えばその一部を出し合って、付近にはたくさんの空き地もあると思うので、駐車場として借り上げてもらうことを希望する。
 - ⇒ 今後の参考にします。
- 議場のスペースについて、現在の議会は議員さんの背中を見て傍聴するような恰好になっている。対面に出来ないか。そうすると議員の方たちも見られていることを感じてもらえるのではないか。
 - ⇒ 様々な議場の形がありますが、現在図面にあるような形が最もポピュラーな形であると考えています。議会は議論する場です。議員と市側が議論する場なので、市民の代表として議員席の位置が現在の位置になっていると考えます。場所に限りがある中で、効率や利便性も考慮し、最もポピュラーな形式で計画しています。
 - ⇒ これについては、市と市議会は車でいうところの両輪であり、なかなかこの場で、市としての立場で市議会の事について「します」「出来ます」と申し上げにくいことをご理解ください。
- 新庁舎の財源計画について、固定資産税が減っている状況で、事業費70億円という非常に大きい計画であり、説明であったように市の負担額が減ったとはいえ、44億円返済のために、市の事業が減らされる、市税が上がるなど、どういう風に考えられているのか。
 - ⇒ 民間では100万円借りたら 100万円を返すのが普通ですが、行政では 100万円借り、100万円返すと例えば70万円返ってくるといった起債を活

用した事業があります。例をあげると合併特例債であり、公共施設等適正管理推進事業債等です。

当初、カナートの店舗をそのまま利用して新庁舎を計画することを考えていましたが、熊本で地震がおき、同様の地震が起きた場合、建物は倒壊しないとしても中が大変な状態になってしまうというシミュレーションとなりました。そのため、無理をしてでも建て替えをしないといけないということになりました。そんな中、国による支援策として、昭和58年以前の建物で耐震補強をしていない庁舎を対象に、有利な起債があることを紹介いただきました。それを利用することで、貯金に相当する基金の取り崩しについて、基本構想時の42億円から基本計画時で10.3億円へ減額する計画となっています。

財政的に無理がないように計画をしており、庁舎建設により税金があがることはありません。

3 市政全般に関する意見交換

- まちづくりの観点から、天神池周辺の環境整備と有効活用を願っている。天神池周辺の遊歩道の整備や、現在 175号線バイパス工事の残土置き場になっている場所のグランドゴルフ場を兼ねた多目的の芝生広場の整備計画があると思うが、早期実現をお願いしたい。これらの環境整備により津万地区、さらには西脇市の発展に大きな効果があると考えられる。
⇒ 早期の実施に向けて取り組みます。
- 先日の大雨対応では、避難準備情報を発令するという情報が各区長に事前に入ったが、避難準備の段階で具体的にどうすればいいかわかりにくい。少し浸かった家もあるが、片づけでゴミを捨てようとしたときに区長の印をもらってほしいと言われたそう。そのようなことを含め、災害が起こった時に被災者の立場に立ってどのように動いていくかをまずきっちり決めるべきである。地区内には西脇北消防署があるが、避難所にはできないと聞いた。津万地区では西脇小学校が指定避難所になっているが道中が危ない。状況によっては、避難所へ向かう行為も危険であるため、どのタイミングで、どこを通過して避難するのかなども含めて具体的に決めていく方がよい。
⇒ 防災ハザードマップで示していますように、大野隣保館も土砂災害警戒区域になっています。危険個所等について、市は情報発信に努め、市民の皆さんと情報を共有できるようにしていきます。津万地区では西脇北消防署の隣にあるコミュニティ消防センターが津万地区北部の皆さんには安心で近い施設だと思います。すぐにこの場所を指定避難所にするというわけにはいきませんが、検討させていただきたいと思います。西脇小学校へ避難してもらおうということがベースとなるため、土砂災害が起こる前に避難をお願いしたいと思います。

- ご説明いただいたようなことは住民の間には浸透していないため、どこへどのタイミングで避難するのかなど災害に備えた避難訓練をしっかりとしていかなければならない。
- ⇒ 西脇地区のまちかどミーティングであった話しですが、南本町では万が一の災害に対応するため、民生委員が対象になる方の同意を得た上で「福祉票」を毎年取得され、要援護者を救助するための取組を進めています。このような取組を各地域で共有していただき、地域の防災力を高めていただけるよう市として情報を提供していきたいと思えます。
- 大垣内の加古川に流入する水路に昨年水門が設置されたが、先日の大雨の時に水門は一切使われなかった。水門の設置と同時に内水の処理もできるようにお願いをしていたができていない。今の状況で大水が出た時に水門を閉めると大垣内は浸水してしまうため、内水処理を考えてもらいたい。現在、加古川の水位観測は板波町と上戸田でされているが、大垣内や蒲江の加古川の水位がわかるようにしてほしい。
- ⇒ 加古川の流れは、下流の河床掘削工事等により以前に比べよくなりました。8年後の完成を目途に、加東市の上滝野や下滝野では130軒の移転を伴う大きな河川改修が進められています。板波町から南の加古川は国の管轄で、北は兵庫県の管轄となっています。そこで、国、県、加東市、西脇市の4者で会議を持っています。横のつながりを生かし、情報を共有し、流域の安全な河川管理を進めていきたいと思えます。黒田庄町福地では、これまで水害が多く起こっていますが、住民と市が協力し、勉強会を重ねポンプの設置を行った結果、今回の水害でも被害がありませんでした。住民の皆さんと市が連携・協力し防災を進めていくことが大切だと考えます。
- 今回の大雨では加古川で5m60cmまで水位が上昇したが、大垣内は無事であった。ただし、水門のところに内水処理として、もう1カ所逃げ場所を作ってもらわないと住民の不安はいつまでも続く。何らかの方法で津万平野に降った雨を逃がす水路を確保していただきたい。
- 災害を未然に防ぐ避難訓練をやっておくべきだと思う。市に引っ張ってもらうのか、地区が引っ張っていくのか分からないが、年に一度は実施すべきである。
- ⇒ 自主防災組織が町内会単位でありますので、そこが主導して実施していくことが望ましいと思えます。
- 自主防災組織は機能していないのではないか。
- 区長、民生委員、消防団などがどのように動くかを含め、自主防災組織が機能していればそこが主導すればいいが、形だけで中身が伴っていない場合はそうはいかない。災害といっても堤防の決壊や、土砂の崩落等地域によって状況が違う。避難する経路については市に考えていただきたいが、実際誰がどのような役割を担い、地域内で安全な避難を進めていくかは町単位で考えてもらうしかない。防災訓練なども町単位で行うのがき

め細やかでよい。

⇒ 避難所へ向かう経路は、地域の皆さんが中心となり十分に話し合いをしなければ決められないと考えます。

○ 避難場所が特定できないというのが問題で、ここへ避難すれば大丈夫だという施設を津万地区内のどこかに指定しなければと考えている。避難準備の段階で、河川の場合は目視や水位である程度はわかるものの、土砂災害についてはわかりにくく、避難を開始するタイミングが問題となる。

○ 上丘町の忠魂碑から八日町を通じて大野へ流れる水路と小学校の北側の広い水路をぬけて上野の三段池へ流れ込む水路の水量がとても多い。三段池の水を雨が降る数日前から抜いてやっと水位を保っている。一番下の東池の石段から水が漏れているという町民の話もあり、池が決壊すれば商店街や下戸田に甚大な被害が出るため危惧している。町で独居老人などを対象とした防災訓練の資料を作っているが、見直しも必要だと考えている。

○ 忠魂碑の上の谷に砂防ダムが二つあるが、土砂で埋まり機能していない。土砂を撤去し機能するようにしてほしい。

⇒ 砂防ダムはそのほとんどが県の管轄でつくっているため、どのような対応ができるか調べます。

1 第2次総合計画について

質疑なし

2 新庁舎・市民交流施設の整備について

○ 喫煙エリアについてはどう考えているのか。

⇒ 現在の庁舎も建物内は禁煙としています。新庁舎は敷地内禁煙について検討します。

○ 災害発生時、避難所としての機能はあるのか。

⇒ 災害時の拠点であり、避難所としては指定しない方針です。付近では西脇小学校や総合市民センターが避難所に指定されています。新庁舎は市職員、ボランティア、自衛隊などの活動拠点として整備する方針です。

○ ヘリポートはあるのか。

⇒ 近接する西脇病院にあるため設置予定はありません。

3 市政全般に関する意見交換

○ 片山市長による子どもたちへの西脇市の授業を聞かせてもらい、市の魅力を改めて感じ取ることができ、とてもよい取組をしてもらっていると感じた。新庁舎の建設についても明るく開かれた様子がわかり未来に希望が持てた。完成が待ち遠しい。

西脇市をより良いまちにしていくための取組の提案として、子どもたちへの食育を積極的に進めていかれてはどうか。近年は様々な添加物を含んだ食品や農薬使用野菜の蔓延など食の環境を不安に思っている。西脇市では、農業をされている方もたくさんいて、旬菜館など地場産の野菜などを販売しているところもある。9月号広報で「地域食材を使った「うまいもん」でおもてなし」というコラムがあったが、素晴らしい取組を進められている。また、黒田庄地区の「黒っ娘おぼんざい」が紹介されていたが“安全・安心な食の提供を通じたまちづくり”という素晴らしい取組も地域で起こっている。そのような恵まれた環境も少なからずあるので伸ばしていったほしいと思うが、市としてそのような安全な食の環境づくりを進めていく予定はあるのか。

⇒ 有機栽培や無農薬野菜などの安全・安心な食の提供ができる環境づくりは、市でも進めています。一つの例として「西脇ファーマーズブランド」の取組があります。一定基準を設け、それをクリアした安全・安心な農産物に西脇ファーマーズブランドのシールが貼ってあります。そのようなことが功を奏し、旬菜館では売り上げが順調に伸び、皆さんに御鼻負にしておられており、また地域の作り手との交流なども多く持っています。

西脇市では、この4年間で農業生産額が1.6倍にまで増えており、イチゴや山田錦、黒田庄和牛などの生産量も伸びており、人にやさしい農作物

づくりを市としてもさらに進めていきたいと考えています。また、食育については現在みらいえなどで行っていますが、新庁舎でも積極的に実施していければと考えています。

⇒ 新庁舎の建設に関して、現在の市役所跡地の活用方法について、現在のところどうしていくかは決まっていません。これから人口が減っていき、この先30年で現在の40%の公共施設を減らさなければ財政的な負担が厳しくなってくるという計画で進めているので、現在の市役所、市民会館の跡地に新しく公共施設を建設する可能性は低いと考えます。日野地区や郷瀬町など近隣の皆さんとよく話し合いをしながら、民間の活力を利用することも含めて考えていきたいと思っています。

1 第2次総合計画について

質疑無し

2 新庁舎・市民交流施設の整備について

質疑無し

3 市政全般に関する意見交換

○ 先般の豪雨の際、川の水位を確認しようとして夜遅くにも関わらず川近くまで来ている方がいた。予算の事情もあると思うが、インターネット等でも見ることができるようカメラの設置を要望する。

⇒ 板波町にはカメラが設置してあり、インターネットで閲覧できるようになっています。

○ NHKのデータ放送でも見ることができる。

○ ただ、設置場所が適切ではなく、分かりにくい部分がある。

⇒ カメラ設置は市では難しいので、県や国とも連携していきたいと思いません。

また、加東市では、昨年度から10年計画で、上滝野・下滝野地域の130件を立ち退きし、加古川の流量を上げる工事を行っています。それにより、西脇市内の川の流れも格段によくなる予定です。

○ 和田町パチンコ店開設では、1万人分の署名を市長と議会へ提出したが、結果的に要望が通ることはなかった。ただ、現在策定中の都市計画の中に盛り込んでもらえるということであったが、その後進捗はいかがか。

⇒ 現在、都市計画審議会で議論中であり、最終的には都市計画マスタープランへ反映したいと考えています。

○ 和田谷川の砂防ダム設置について、計画が途中で中断となっているが再度進めていただけるようお願いしたい。

⇒ 県や加東土木事務所とも情報共有していきたいと思えます。和田町からも要望書として提出をお願いします。

先日、気象庁の方が来西され、今後予想される大雨に対し、いかに早く避難してもらえるか、それをどうアナウンスしていくかがポイントだと話されていました。へそ公園はアメダスの観測地点であり、身近なデータがあるので、災害に対し必要な行動をとっていただきたいと思えます。

○ 農業用ため池（南池）について、管理が負担となっている。農業用としてはほとんど利用していないので、市で管理してもらえないか相談したが、町で管理して欲しいと言われた。今後どうすべきか市の考えをお聞きしたい。

⇒ 原則としてため池は町で管理するものと理解していますが、再度担当者を確認し、まちづくり課を通じて回答します。

⇒ 西脇市では、各町で水の勉強会を実施しています。特に、黒田庄町福地では、大雨になると頻繁に浸水していましたが、勉強会で学んだことを生かし自分たちでポンプを設置するなど対応することで、今回の豪雨では浸水が一切ありませんでした。他の地域でも、水の勉強会を積極的に活用していただきたいと思います。

1 第2次総合計画について

質疑なし

2 新庁舎・市民交流施設の整備について

○ 1000年に一度の豪雨など、大きな災害時に庁舎に職員が参集できない可能性もあるが、本部機能の代替などは考えられているのか。

⇒ 新庁舎周辺は、溢水ではなく内水被害が主たる要因と考えており、河川改修とともに、ポンプ場の増強などを進めてきました。その結果、一定の効果が出ています。また本部機能の代替としては、みらいえを利用する計画を検討中です。

○ ポンプ場などに頼っていても限界はあるだろう。そもそも、なぜハザードマップで色がついている場所へ移転するのか。

⇒ 今後、加古川流域（滝野付近）で120戸の移転を伴う大規模河川改修が行われる予定です。事業が完了すれば、杉原川の井堰撤去などを行うことができ、流れがよくなります。

また、今後のまちづくりを進めていくうえで、中心市街地の活性化を図るといっても適地であると考えました。対応可能なことからしっかり進めて安全なものとしていきます。

○ 座席数を600席に減らしてまで医師会館を移転させる必要はあるのか。

⇒ 当初は500席で計画していましたが、小中学校の連合音楽会などの実施状況などを踏まえ、600席に見直しました。人口4万人のまちであることを踏まえ、維持管理の費用なども考慮し、600席が最適であると考えました。

多機能ホールとして、音響面を含め可能な限りよい施設にしたいと考えています。また、今の市民会館の大きな課題である演者の動線、舞台などは、利用団体の方などと意見交換を進め、大きく改善できています。

医師会館の移転については、市庁舎と隣接した場所で、連携してより効果的な事業を展開していけるとの判断から決定しました。

○ 市民交流施設の利用は有料か。

⇒ 有料ですが、団体・利用の趣旨によっては従来からある減免なども考えられると想定しています。

○ 新庁舎等の整備で、西脇区など中心市街地の活性化を図りたいとのことであったと思うが、活性化の具体的な方向性などは決定しているのか。今後投資が中心市街地に偏ってしまうのではないか。

⇒ なぜこの場所かということについては、平成28年度に策定した基本構想で、防災拠点としてふさわしいなど4つの理由を挙げています。また、神姫バス営業所に隣接した場所であり、公共交通ネットワークの見直し、活用を行いやすい場所というのが大きな要因でもありました。

ただ、市役所が移転するだけで、賑わいが創出できるわけではないと考えています。事業者の皆様も含め、様々な方と話を進めており、にぎわい創出に向けて市として主体的に取り組んでいきたいと思ひます。

3 市政全般に関する意見交換

- 庁舎移転の候補地は、当初3か所であったという話を今日初めて聞いた。庁舎移転に伴う情報をもう少し市民に発信していただきたい。

また、野村町公民館は建設から45年ほど経過し老朽化が進んでいる。まちづくり協議会の活動拠点ともなっており、地域のコミュニティセンター的機能も有する施設である。茜が丘複合施設内に、重春・野村地区のコミセンが設置されたが、あれは両地区の交流広場であり、野村地区のコミセンではないと考えている。市は、野村地区のコミセンについてどうお考えか。

- ⇒ 原則、1地区1コミセンと考えており、地域によっては隣保館があるところもあります。重春・野村地区のコミセンに関しては、みらいえ建設の際に両地区の区長さんより施設内にコミセンを設置して欲しいとの要望のもと、変則ではあるが2地区のコミセンとして設置した経緯があります。ただ、2地区の事務所として活用するには不便な点もあるので、活用方法等については工夫が必要であり相談していただきたいと思ひます。

【比延地区】平成30年7月10日開催

1 総合計画に関すること

- すばらしい総合計画であるが、理念的であり、具体的に何をされるのかわからないといった印象を受ける。今後、政策の柱に基づいて取り組まれることと思うが、どの分野でもよいので例を挙げてほしい。
- ⇒ 本日説明させていただいたのは市の最上位計画となる基本構想についてであり、将来のまちづくりの方向性を示すものです。具体的な取組については、基本構想の下の基本計画で定めていくこととなります。基本計画も今年度中に策定しますが、その作業はこれからとなります。基本計画の内容については、パブリックコメントなどを通じて広くお知らせしていきますが、その際に具体的な取組も明らかになります。それらにつきましては、関心をもっていただき、御意見をいただければと思います。
- 説明の中で有効求人倍率が2倍という話があった。何年か前に職安で耳にした数字は1.5倍であり、働く場所はたくさんあると捉えていた。一方で、事業所数や従業者数も減っており、どう捉えればいいのか。
- ⇒ 有効求人倍率が高くなっており、内訳としては介護などのサービス業で求人が多くあります。しかし、職種によっては給料が少ないといったこともあります。現在は職を選ばなければ仕事はありますが、介護、サービス業といった職種で人手不足が顕著となっており、結果として有効求人倍率が上がっています。

2 新庁舎等整備について

- 立地が疑問である。先日、県より1000年に1度の想定が発表された。基本計画では敷地を50cmかさ上げすると記載があるが、想定では2日間で12mの浸水被害が出るとされており、明日起るかもしれない被害に対しどういう考えをもっているのか。一般駐車場は北側、来客は南側となっており、公用車だけ助けようとしているのではないかと邪推してしまう。今から場所を変えるのは難しいだろうが、かさ上げの高さなどは見直してはどうか。
- ⇒ 県の想定条件について正しく理解していただきたく思います。1000年に1度の降雨による洪水想定区域は、H16年の3倍の降雨が加古川流域の全域で降った場合に、西脇のみ河川堤防が決壊するという想定です。
- 河川改修の効果は確実に発揮されています。先日の降雨はH16の2倍近い雨量でしたが、河川を起因とする大きな被害は起きていません。
- みらいえをバックアップ施設として位置付けるなど、行政の業務継続計画は検討しています。
- 健康交流棟は年中無休とするのか、市役所と同じようにするのか。
- ⇒ 年末年始を除いて開館する予定であり、9時～22時までの開館を想定しています。

- 駐車場は 350台とのことだが、職員が大半を占めるのではないか。
- ⇒ 施設として 720台必要と考えています。その場合、敷地外に 300台の確保が必要となります。その場合、職員は敷地外になることを検討しています。また臨時駐車場として下戸田公園や西脇病院駐車場なども活用しながら、大きなイベント等に対応したいと思います。
- (事業費について) 実質負担が減ったとのことだが、借入れは何年償還か。
- ⇒ 起債は30年間の償還を予定しています。
- 多目的ホールは中途半端になりがちである。設計事務所はどこか。
- ⇒ 昭和設計という設計事務所が統括として全体設計を行い、その下に専門の舞台関係の設計会社がつく体制となっています。
- 現在の市民会館の楽屋は狭くて劣悪であるが、新施設の計画でも同様に狭いのではないか。
- ⇒ ご意見をお伺しながら計画を進めており、舞台周りなどは、概ね好評をいただいています。楽屋まわりなどについても、現在見直しを行っているところです。
- ホールの完成が楽しみである。しかし、可動式客席は、客席全体が揺れることがあり、鑑賞に集中できない。
- ⇒ 最新のもの改良が進んでいます。音響面では、音楽ホールではないので、そういったホールよりは性能が劣ると思います。
- カナート跡地の取得、解体にいくらかかったのか。
- ⇒ 用地取得に1億6千万円、解体に1億9千万円です。
- 市役所の跡地はどうする予定なのか。
- ⇒ 現在検討中です。
- A道路の民家は立ち退きできたのか。
- ⇒ 交渉中です。

3 市政全般について

- 上比延工場公園などの影響もあり、上比延町内道路の交通量が非常に多く、子どもや高齢者にとって危険な状況で困っている。また、工場公園には大きな企業の工場があり、場所は大きく使っているが雇用が少ない。まずは、企業を呼び込み大きな工場を建てる前に、道路を何とかするよう考えてもらいたい。
- ⇒ 道路整備が難しい状況であることも含め、これまでから皆さんと協議を重ねており、御理解をお願いします。
- 比延地区を含め市内の加古川東岸にはスーパー等量販店がない。小型のスーパーでもよいので誘致をお願いしたい。やむを得ず加古川を渡り買い物に行っているが、鹿野大橋はトラックなど交通量が多いうえに歩道がなく、高齢者等が自転車や徒歩で渡るには非常に危険である。歩道専用の橋

を作ってくださいか、新しい市役所に直接つながるような橋の整備をお願いしたい。

⇒ 橋を新しく造るというのは市だけでは非常に難しいことであり、関係機関との協議が必要となりますが、大事なことなので要望として考えていきたいと思います。

○ 消防団では、日中に団員確保が困難であり機能しにくい状況である。

⇒ 市内に雇用を増やしていくことが重要であり、今後も企業誘致に取り組んでいきます。自営業の従事者数も重要になると考えています。

1 第2次総合計画について

質疑無し

2 新庁舎・市民交流施設の整備について

質疑無し

3 市政全般に関する意見交換

○ 総合計画説明資料20、21ページに記載されている「つながり」や「健康」に関して、先日、心肺蘇生法の講師をされている富原先生と話しをする中で、市内中学校にはAEDが1台ずつしか配置されていないことを知った。そこで、私が所属する兵庫県土建一般労働組合西脇支部に相談し、市内各中学校にAEDを寄付したいと教育委員会に申し出たところ、メンテナンス等の費用を考えると寄付受入れは難しいとの返事があった。これは、「つながり」や「健康」の中に記載してある内容と相反するのではと考えるが市長はどうお考えか。

⇒ 寄付は受入れさせていただきます。合わせて、AEDを操作できる人も増やしていきたいと考えます。

○ 今後人口減少や少子高齢化が進む中で、自治会活動等にも多くの影響が出るのが予想される。出会町においても、消防団の後継者不足が深刻化しており、現在の団長も50代と高齢である。町内での統合も考えてはいるが、まずは市で基準を作っていただけないか。

⇒ 平成27年4月に鹿野町と高嶋町で統合がありました。町ごとに面積や特性も異なる中で基準を作るのは難しいため、比延地区の例のように、まずは消防団を含め地元で協議していただき、そこに行政も加わっていただければと考えます。

○ 野間川にある井堰は設置から20年以上が経過し劣化が激しい。何度も修繕を繰り返してきたが、そのたびに結構な金額（直近で40万円ほど）を支出している。全体を修理しようと思うと約1千万円必要になるとも聞いている。市の補助が40%期待できるとはいえ、これほどの金額が妥当なのか。

⇒ 事業によって負担割合が変化するのも事実です。また、合山町の井堰を改修した時のように、災害対応の事業とすることで若干ではあるが費用が抑えられたという例もあります。今後、改修する場合には、担当課としてできる限り相談に応じたいと考えています。

○ 先般の豪雨では、大きな被害もなく無事に乗り越えることができた。しかしながら、今後も大規模な災害が予想される中で、芳田地区の避難所が地区内ではなく、地区外の重春小学校や南中学校であることについて非常に懸念している。芳田地区内での避難所の設置について、ふれあい館や芳田地区の交流拠点等の課題も含めお答えいただきたい。

⇒ 4年前に出席した芳田地区区長会で、認定こども園をどこに設置するか議論があった際に、交流の場、防災の拠点としての機能も発揮することを見越して現在の場所に決まったと記憶しています。

避難所の指定に関しては、土砂崩れや浸水等の危険がない場所に設置することが大前提であり、今後も議論していきたいと考えていますが、直ぐに結論が出る問題ではないので、現在のところは指定避難所である重春小学校への早めの避難をお願いするとともに、民生委員と連携するなど地域で安全を守る体制も整えていただきたいと思います。

○ 自主防災の大切さは重々承知していながらも、最近ではなおざりになっているとも感じている。地域でも今一度意識の高揚を図るとともに、市との連携を前提に市からも情報提供など働きかけをお願いしたい。

また、こども園を自主避難所に指定することについて、位置的にも難しいのは理解してはいるが、ふれあい館の改修、芳田地区のコミュニティセンターの必要性も踏まえ今後も議論していきたいと考える。併せて、市からの協力、後押しもお願いしたい。

○ 芳田地区区長会長 今後も大規模災害が予想され、実際に各地で大きな被害が起こっている中で、芳田地区内への避難所の設置を改めてお願いしたい。方向性としては、こども園を避難所として指定するとともに、コミュニティセンターや駐在所、直売所についての機能も集約できないかと考えている。芳田の里ふれあい館の改修も踏まえ検討いただきたい。

⇒ いつまでにとは言えませんが、芳田地区皆さんの総意をいただければ議論を進めていきたいと考えます。

1 第2次総合計画について

質疑なし

2 新庁舎・市民交流施設について

- 新庁舎には、防災の観点からヘリポートがあった方がいいのでは。
- 西脇病院にあるのでそちらで対応可能ではないか。
- アプローチについて、国道までつながっているが、信号があった方がいいのではないか。メインの道路から入りにくい立地になっているので検討してほしい。
- ⇒ 国道427号の拡幅を移転とほぼ同時に完成する予定です。防災面については引き続き検討していきたいと思います。
- 浸水対策の排水ポンプについては、燃料切れになってしまうようなことの無いようにしてほしい。
- 50cmかさ上げとのことだが、庁舎だけを上げるのか。大雨でも50cmで大丈夫だと考えているのか。市民の避難スペースはどこにあるのか？
- ⇒ 新庁舎等の敷地南側が50cm以下の浸水想定区域になっており、河川対策により以前の浸水区域より狭くなっています。それらを踏まえ、敷地南側を中心に50cm上げるとともに、一階が浸水しないようにする方針です。
- ⇒ この施設は、避難所としての想定はしていません。関係機関と連携した災害対応拠点として機能させる予定です。ただし、一時的に避難してきた市民を追い返すようなことはなく、近隣の避難所に誘導していきたいと考えています。
- 新庁舎を避難所として考えていないというのは、市民を馬鹿にしている。
- ⇒ 誤解です。この施設は全く新しい場所であり、近隣の方の避難所はセンティア、西脇小学校など既存の避難所で対応しています。また、想定外の災害発生時には、バックアップ機能を持たせる施設としてみらいえを使用する計画としています。市役所を避難所として想定はしていませんが、来られた方を受け入れないということではありません。
- 国道175号からのアクセス道路について、国道427号の拡幅進んでいるが、1箇所では不足すると思う。A道路の計画はどうなっているのか。
- ⇒ A道路には一部狭い箇所があり、対応が必要な状況ではありますが、重要な箇所であることから現在も交渉を進めており、新庁舎移転までに事業化したいと考えています。
- 市民交流施設に食堂はないのか。
- ⇒ 食堂については、これまで民間事業者のヒアリングも進めてきましたが、採算が難しい状況であり、カフェならば実現可能であると考えています。敷地内にはカフェを想定していますが、敷地外には、レストランをはじめ、商業施設の立地を期待しています。

3 市政全般に関する意見交換

- 地域内で働きながら、地域コミュニティの維持等自分たちの後を継いでくれる若い世代が本当に少なくなってきた。今後数年で地域内の少子高齢化は一気に進み、集落も限界集落化していくのではと危惧している。そうなれば商業施設などの撤退をはじめ、生活機能の低下等に伴い福祉送迎車等の充実が必要になるなど負担が増え悪循環が想定される。そのため、地域の産業、就業などについて取り組んでもらいたい。播州織が地域を支えている割合が大きいと考えるが、播州織を地域の産業、観光の資源としてもっと活用できないかと思う。販売箇所等も一般にはまだまだ浸透していないと思うのでもっとわかりやすくし、PRに取り組んでいただきたい。行政がリードして発展させるというのも難しいとは思いますがお願いしたい。
- ⇒ いただいたご意見に近い計画が既にあり、皆さんのお声をいただきながら実現に向け進めていきたいと考えています。
- 黒田庄地区はコンビニに行くのも車がないと行けない。また、水害の多い地域でもある。そのような状況から、黒田庄地区住民の交通手段をもっとよく考えてほしい。新庁舎の整備やみらいえなどは私たちにとってはあまり関係がない。例えば、黒っこプラザをどうしていくのかとか、黒田庄地区がどうなっていくのか、今後の黒田庄地区をどうお考えなのかというお話が聞きたい。
- ⇒ 市内全体の状況を把握するよう努め、必要なことを進めていきたいと思えます。例えば黒田庄地区では酒蔵の誘致を進めており、門柳が候補地となっています。黒田庄地区では酒米も多く作られているので、そういった側面も含め黒田庄地区のまちづくりが進んでいけばと考えています。
- 黒田庄地区から多可高校への通学に利用できるバスについて、以前から要望等があったことと思うが、現在どのような状況で進んでいるのか教えてほしい。
- ⇒ 黒田庄地区から多可高校への通学に利用できるバスについては過去にもお話をいただいておりますが、整備は難しいというお答えをしてきました。高校の立地等で通学が大変なことも理解できますが、複数の高等学校がある中で多可高校のみを考えるとということは難しいです。また、市内いろいろな地区から通われているため、一地区から市外への通学のための公共交通を整備するというのも難しいです。一定の利用者がいれば民間のバスが路線を作るということもありますが、それも難しい状況です。コミュニティバスもデマンド方式などいろいろと考えていますが、それもエリア内での運行が原則であるため、スクールバスとしての支援はなかなか難しいと考えます。
- 市外でもあり、県立高校ということもあるので対応は難しいだろうし、これから人口減少や少子高齢化が進む中で、多可高校へ進学する生徒も減っていくとは思いますが、交通量の多い箇所や夜間の自転車運転が危険である

という意見をお持ちの住民もいるので前向きに検討願いたい。

- 黒田庄地区では加古川の東側に黒田庄中学校、楠丘小学校の2つの指定避難所があるが、加古川の西側の集落については指定避難所がない。先日も大雨の際に避難勧告が発令されたが、加古川に架かる橋を見に行ったら強い危険を感じ、高齢者などに橋を渡って避難所へ行くようにと案内ができなかった。そのようなこともあり、加古川西岸に公共施設がないから避難所を指定できないというのではなく、何らかの形で避難所を確保することをお願いしたい。もしそのようなことが難しいのであれば、土砂災害警戒区域内ではあるが砂防ダムやがけ崩れ防止ネットの設置など施設の周りの防災整備を実施した上で桜丘小学校を避難所に使うということを考えていただきたい。

また、黒田庄地区での国道175号線の整備に係る運動を盛り上げていく前に、私たちが実際に活用している生活道路の整備をもう少し充実したものにしてほしい。例えば石原から西澤、大伏へと向かう市道は穴がよくできてしまうが、支障がでるたびに行政が直ぐに対応してくれるものの凸凹になっている。ここは高校生の通学路にもなっているし、国道の迂回路に使う人が高速で走行する所でもあるので危険だ。石原坂峠も先日の大雨で道が崩れ通行できないようになっている。このような生活道路がきちんと整備されてこそバイパスの話にも積極的になれると思うので検討をお願いしたい。

- ⇒ 避難所については、なかなか整備するのに適した場所がないという事情があります。桜丘小学校は確かに強固な建物で、施設としてはよいと思いますので、土砂災害で被害がどれだけ出るかといったことを考慮したうえで検討したいと思います。

また、生活道路を良くして行ってほしいということと、その先の国道175号バイパスの整備ということですが、できる限り対応していきたいと思います。具体的なことは、ご要望として市へ提出をお願いします

- 道路の修理については、要望書や緊急であれば連絡をしているが、すぐに市の職員が直しに来てくれ、ありがたく思っている。ただ、補修が続き、結果として道が凸凹になっているので、20mや30mといった大きな単位で舗装をやり直すなどの工事をお願いしたい。

- ⇒ 該当の道路は元々農道であったこともあり大変舗装が薄く、傷みやすくなっています。市道は市内で延長が430kmあり、順番に整備をしている状況ではありますが、傷みの具合も考慮して可能な限り早期に整備をする方向で進めています。

- ローソン西側の大伏の山裾では、今年の台風で多くの木が倒れ、現在も倒れかかっている状況である。大伏の子どもたちや高校生は遠回りをして通学をしているが、どうしても通らなくてはならない場所もある。木が倒れると非常に危険であるため早急に対処していただきたい。黒田庄地区は

山に囲まれており、先日の大雨でもとても危険を感じた。私は家族を連れて楠丘小学校へ避難したが、畑瀬橋を渡るのは非常に危険で、橋が流されそうな感じさえ受けた。加古川西側の住民の避難場所については喫緊の課題として検討していただきたい。

また、へそマラソンをもっと盛り上げてもらいたい。

⇒ 土砂災害は、いつどこで起こるか分かりません。気象庁が出している情報で、かなり細かく、どれほどの雨がどれぐらい降れば土砂災害の危険性がどれだけ高まっているというものがあります。そういった情報も参考にさせていただきたいと思います。大伏の通学路のところはできるだけ早く対応し、県とも相談して進めていきたいと思っています。

先日の大雨の際は、津万井の加古川西岸にお住まいの方が日野の体育センターへ避難して来られました。希望する施設に避難が可能であるため、河川が危ないなど状況によっては、日野の方に行ってもらうことも選択肢になり得ると考えます。

へそマラソンについては、もっと盛り上げられるように努力したいと思っています。へそマラソンも高校新人駅伝も西脇市の宝だと思っていますので、盛り上げていきたいと考えています。

○ 黒田庄のことをもう少し知っていただき、人口の流出も抑えていただくように考えていただきたい。他所から西脇市へ来られた方への支援もいいが、もともと黒田庄地区で住んでいる住民への支援も手厚くしてもらえようと考えてほしい。一般市民の声をよく聞いていただき、人を大切にした市政運営をお願いします。